



川東小だより

第1号

平成30年4月13日

新発田市立

川東小学校

☆☆合い言葉は、「夢や目標」に向かってチャンス・チャレンジ・チェンジ です。☆☆

「夢や目標」に向かってチャンス・チャレンジ・チェンジ —かけがえのない子どもたちの今と未来のために—

校長 田中 範克

春爛漫の4月9日に笑顔と拍手に包まれ、入学式が行われました。39人の1年生を迎え、川東小学校191人の新たな学校生活が始まりました。

新学期は、桜や梅など春の花が咲き薫る季節。春といえば桜。日本で桜を眺める風習が見られるようになったのは、今から1,000年以上も前。桜の開花は農民たちにとって稲作の始まりを告げる暦の日安であり、農民が豊作を祈願して宴を開いたのが始まりだとも言われています。今も昔も、桜は始まりを告げるかけがえのない特別な花だといえます。

「桜は花に頭(あら)われる」

山桜のように、他の雑木に交って目立たなかった桜の木も、花が咲いて初めて桜の木だと気づくことがあります。ふだんは様々人々に紛れ目立たない人が、何らかの機会に、優れた才能を発揮するということわざです。



これから、二王子岳の山桜が花を咲かせます。その美しい桜の花の存在を雑木の合間から輝かせ気づかせてくれます。ふるさと「教育村 川東」のシンボルである二王子岳の、遅い春の始まりを告げるかけがえのない桜の花です。

子どもたち一人一人は、今は気づかない、これから発揮される優れた才能や様々な可能性を必ずもっています。「桜は花に頭(あら)われる」ように、子どもたちは、これから何かのきっかけや出会い、学びや体験などの機会により、優れた才能に気づき、開花し、大きく成長していくのです。

今年度も、川東小学校の合い言葉は、【「夢や目標」に向かってチャンス・チャレンジ・チェンジ】です。しっかりと「夢や目標」をもち、様々な機会(チャンス)を生かし、挑戦(チャレンジ)して努力し、よりよく自分を変えていく(チェンジ)子どもたちを目指していきたいと思えます。

この1年間、様々な学習や体験を通して「桜は花に頭(あら)われる」ように一人一人の子どもたちのよさが、ふるさとの二王子岳の山桜の花が咲くように開花し、輝くことができるように、職員一同、指導や支援に精一杯あたりたいと思えます。

ふるさとを愛し、未来を切り拓く、かけがえのない川東小学校の子どもたち。その子どもたちの今と未来のために、保護者の皆様や地域の皆様から温かく見守っていただき、ご理解とご協力を賜りますよう、今年度もよろしくお願ひいたします。